

国指定史跡
蛸ノ浦貝塚
下船渡貝塚
大洞貝塚



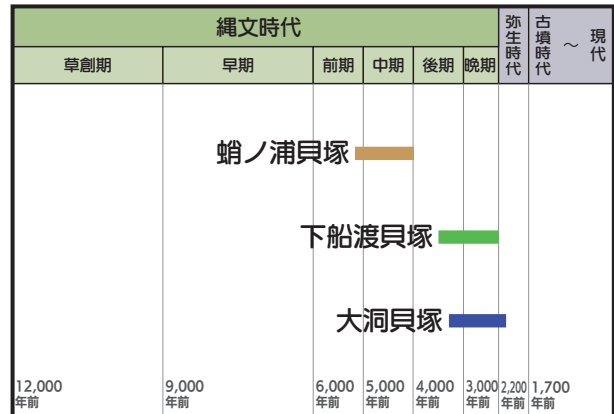
貝塚のまちへようこそ！

大船渡市は、岩手県内の貝塚遺跡のおよそ3分の1が分布し、3つの貴重な国指定史跡(蛸ノ浦貝塚・下船渡貝塚・大洞貝塚)がある「貝塚のまち」です。これらの貝塚遺跡から、どんなことがわかるのでしょうか。

縄文時代って？

3つの貝塚遺跡は、縄文時代(今からおよそ12,000年前～2,200年前)にできました。縄文時代は、日本列島の歴史の中で、煮炊きなどに使われる土器が初めて登場した時代です。この時代の土器は、縄を転がしてつけた模様がよくみられることから「縄文土器」と名づけられました。これが「縄文時代」の呼び名の由来です。

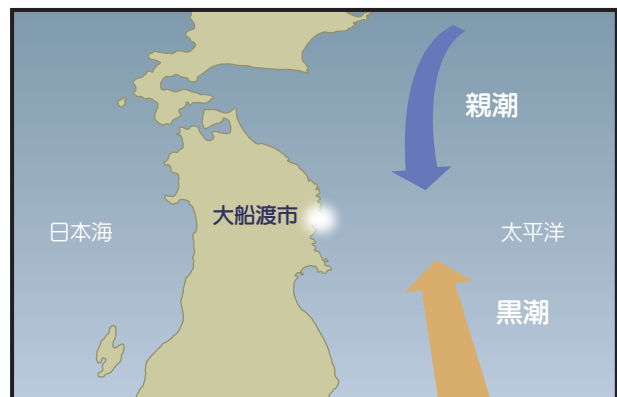
縄文時代の人びと(縄文人)は狩猟採集民で、狩りや漁を行い、山菜や木の実、貝類などを採って暮らしていました。



三史跡の年表

三陸の海の恵み

冷たい親潮は、北から魚の餌となるプランクトンが豊富に含まれた海水を運び、温かい黒潮は、南から豊富な種類の魚を連れてきます。これらの海流が出会う場所となっているため、三陸の海は世界的に重要な漁場として知られています。人びとが古くからこの恵みを利用してきたことが、貝塚遺跡の調査からわかっています。

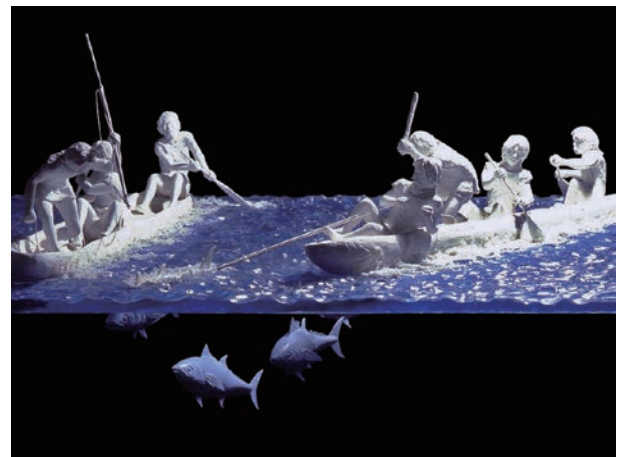


三陸沖周辺の海流

縄文人の贈り物

三陸沿岸には数多くの貝塚遺跡があります。縄文人が食べた貝の殻が集まった貝塚では、獣や魚の骨などが良好な状態で残っています。また、漁に使った道具や、埋葬された人やイヌの骨も見つかります。

このような貴重な手がかりによって、現代の三陸沿岸に息づく生業や食文化のルーツが、はるか縄文の昔から受け継がれていることを、貝塚は教えてくれます。



モリで漁をする縄文の漁師たち

たこ うら
蛸ノ浦貝塚

所在地 赤崎町字蛸ノ浦
指定年月日 昭和9（1934）年1月22日
指定面積 約 55,000 m²
主な時代 縄文時代前期末～中期



出土したマグロの骨

しも ふな と
下船渡貝塚

所在地 大船渡町字宮ノ前
指定年月日 昭和9（1934）年1月22日
指定面積 約 9,300 m²
主な時代 縄文時代後期中葉～晩期



出土した土器

おおほら
大洞貝塚

所在地 赤崎町字大洞
指定年月日 平成13（2001）年8月13日
指定面積 約 20,000 m²
主な時代 縄文時代後期後葉～弥生時代



出土した土偶

たこ うら 蛸ノ浦貝塚

日本屈指の大貝塚

蛸ノ浦貝塚は大船渡湾の東岸に位置する標高約 40mの丘にあります。丘の上にあった縄文時代のムラからは、海を見下ろすことができました。草丈が低い季節に訪れると、地表から貝塚の盛り上がりを見ることが出来ます。ムラが縄文時代前期末から中期（今からおよそ 5,200 年前～ 4,000 年前）と長く続いたことから、住みよい環境であったことがうかがえます。

貝塚は、平坦な丘の頂を取り囲むように、直径およそ 100mの範囲で、南北ふたつに分かれたブロックが環状に広がっています。厚さは最大 2 mにもなり、貝塚の規模は日本屈指と言われています。

多彩な内容の貝塚

貝塚（右）には、砂底を好むアサリ、ヒメシラトリガイなどの貝と、岩場を好むイガイ、スガイ、マガキなどの貝の両方が含まれています。また、マグロの骨を多く含む層も見つかっています。ある時期に、沿岸に近づいた群れを狙って、一度にたくさん獲ることができたのかもしれません。

蛸ノ浦ムラの縄文人が、大船渡湾の入口に近い立地条件を生かして、安定した食料を得ていたことがうかがえます。



蛸ノ浦貝塚上空からの眺め

骨角製の道具とアクセサリー



骨製のヘラ

早稲田大学會津八一記念博物館蔵



ツリバリ

早稲田大学會津八一記念博物館蔵

蛸ノ浦貝塚では、動物の骨や角などで作られた道具が数多く見つかりました。シカの骨でできたヘラ状の道具（左上）や、シカの角を材料に作られたツリバリなどが出土しています（右上）。

蛸ノ浦ムラの縄文人が身にまとったと考えられるアクセサリー（右）は、動物の角や骨、牙に細かい加工を施して作られており、さまざまな形のものが見られます。

貝塚からは、通常の遺跡では残りにくい骨角製の遺物が、このように良好な状態で見つかるため、当時の暮らしについて多くのことを知ることができます。



アクセサリー

早稲田大学會津八一記念博物館蔵

丘の上に広がるムラ

丘の上のなだらかな部分で竪穴住居跡が見つかりました。円形のくぼみから、柱の穴や、屋根の部材と思われる焼けた木材が発見されました。また、周辺からは8体の埋葬された人骨が出土しました。

この場所は、縄文時代の蛸ノ浦ムラの一角だったと考えられます。

しもふなと 下船渡貝塚

大船渡湾を見渡す物見のムラ

下船渡貝塚は縄文時代後期中葉から晩期（今からおよそ 3,500 年前から 2,200 年前）の貝塚遺跡です。遺跡は三陸沿岸の都市を結ぶ国道 45 号に面しています。開けた場所に位置する標高約 20m の高台からは、大船渡湾を一望することができます。

国道の移転工事に先だって行われた昭和 36（1961）年の発掘調査では、多数の土器、石器、骨角器などとともに、4 体分の人骨や埋葬されたイヌの骨が出土しています。



下船渡貝塚上空から望む大船渡湾

縄文時代の狩りとイヌ

下船渡貝塚では、イヌの骨が見つかりました（右）。下船渡ムラの縄文人は、イヌを家族の一員のように大切に扱い、なきがらを手厚く葬ったと考えられます。

石でできた矢じり（下）は、縄文時代の遺跡でよく見つかります。弓矢とイヌが登場したことで、縄文時代の狩りは、主にヤリを使っていた旧石器時代から大きく変化しました。



石の矢じり



埋葬されたイヌ

骨から見える縄文のくらし

貝塚はおよそ 60cm から 120cm の厚さがあり、主にアサリの殻でできています。この時期の貝塚としては大規模なものです。

貝塚からは、シカ・イノシシ・クジラ・イルカなどの哺乳類の骨や、マグロ・タイなどの魚類の骨が見つっています（右）。下船渡ムラの縄文人が、さまざまな獲物を求めて、狩りや漁を行っていたことがわかります。



貝塚で見つかった獣や魚の骨

造形の魅力



土偶

縄文時代の大きな魅力のひとつは、地域や時代によって異なる土器や土製品などの造形です。縄文時代後期から晩期にかけての東北地方では、落ち着いた繊細な装飾が好まれました。

下船渡貝塚で出土した土偶（左）は、頭部に施された立体的な装飾が目を引きます。表面のくぼんだ部分に残った顔料などから、もともとは表面が赤く塗られていたと考えられています。

シカの角でできた腰飾り（下）には、曲線的な模様が丹念に彫刻されています。

このような手の込んだ造形は、身に着けて威信を示したり、祈り・まじないに使用されたりするような道具だけでなく、土器のような日用品にまで及んでいます。



シカの角でできた腰飾り

おおほら 大洞貝塚

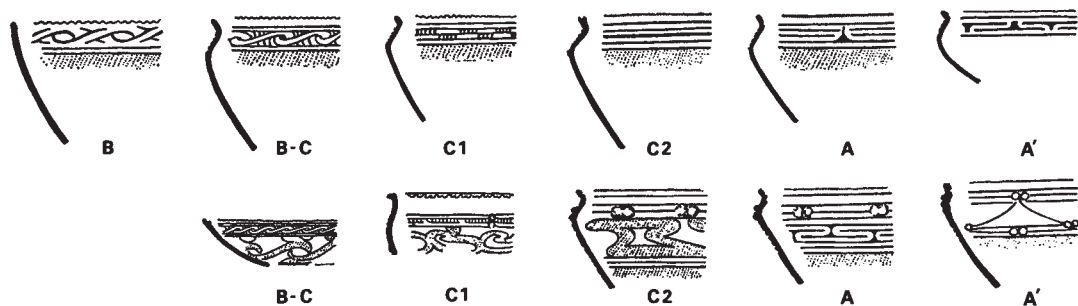
縄文漁師のムラ

大洞貝塚は大船渡湾の奥に位置しています。縄文時代晩期（今からおよそ 3,000 年前から 2,200 年前）を中心とする貝塚遺跡です。

遺跡は標高約 20m のなだらかな丘の上を中心に広がっています。中心部分には居住域と墓域があり、南北の斜面に4か所の貝塚が点在しています。遺跡の西側では、小さな入り江があった痕跡がありました。この入り江は、ムラから海に出る玄関口だったと考えられます。この丘には、水産のまち大船渡のルートとも言える、縄文漁師たちのムラがあったのです。

「大洞」を有名にした土器

大洞式土器（下）は、縄文時代晩期に、東北地方を中心とする広い範囲で流行しました。この土器型式は、大正 14 (1925) 年に大洞貝塚の発掘調査に参加した山内清男博士^{やまのうちの すが お}によって名づけられました。山内博士は、地域や時期によって特徴が異なる縄文土器を比較・分類した第一人者です。縄文時代の終わりに登場する大洞式の研究を通じて、日本の歴史における縄文時代の位置づけを明らかにしたことは、博士の代表的な業績のひとつとして知られています。



古

新

大洞式土器の文様の移り変わり

海に生きた大洞縄文人

大洞貝塚ではおよそ20体の人骨が見つっています（右）。縄文人は平均して現代の日本人より小柄で、立体的な顔立ちをしていました。

大洞貝塚の人骨では、耳の穴をふさぐような形のコブが高い割合で見つかります。これは、現代ではサーファーズイヤーと呼ばれる病気の跡で、冷たい水の刺激が原因になると言われています。大洞ムラの縄文人は、海の仕事を熱心に行っていたと考えられます。



大洞貝塚から出土した女性の頭蓋骨

ハイレベルな漁の道具

大洞ムラの縄文人は、ツリバリ・モリ・ヤスなど、さまざまな道具を漁に使っていました（右）。

縄文人は、狙う獲物にあわせて工夫を重ね、道具を進化させてきました。大洞ムラで使われた漁の道具は、高いレベルに達しています。このため、なかには現代まで使われている道具とよく似た形のものがあります。異なっているのは、縄文人の道具が動物の角や骨から作られているという点だけです。



縄文時代のモリ（手前）と現代の鉄製モリッパ（奥）



さまざまな漁の道具



大正 13	1924	蛸下大	柴田常恵内務省考査官が気仙地方の遺跡を踏査する。
大正 14	1925		東北帝国大学の山内清男が大洞貝塚の発掘調査を行う。
大正 14	1925		東北帝国大学の長谷部言人らが大洞貝塚の発掘調査を行う。
			 <p>大山柏が描いた大洞貝塚の調査隊（個人蔵）</p> <p>発掘調査には、東北帝国大学の長谷部言人、東京帝国大学の小金井良清のほか、大山柏、八幡一郎など、当時の考古学界を代表する研究者たちが参加しました。</p>
昭和 9	1934		蛸ノ浦貝塚と下船渡貝塚が国の史跡に指定される。
昭和 10	1935		角田文衛が大洞貝塚の発掘調査を行う。
昭和 26	1951		東登、菊池啓治郎らが大洞貝塚の発掘調査を行う。
昭和 31	1956		慶応義塾大学の江坂輝彌らが大洞貝塚の発掘調査を行う。
昭和 32	1957		早稲田大学の西村正衛らが蛸ノ浦貝塚の発掘調査を行う。
			 <p>蛸ノ浦貝塚で見つかった竪穴住居跡</p> <p>竪穴住居跡は丘の平坦な頂上部分から見つかり、中からは焼けた上屋部分の部材などが出土しました。</p>
昭和 33	1958		早稲田大学の西村正衛らが大洞貝塚の発掘調査を行う。
昭和 35	1960		慶應義塾大学の江坂輝彌らが大洞貝塚の発掘調査を行い、D 地点貝塚を発見する。
昭和 36	1961		慶應義塾大学の江坂輝彌、岩手大学の草間俊一らが下船渡貝塚の発掘調査を行う。
			 <p>津波の後に行われた下船渡貝塚の調査</p> <p>昭和 35（1960）年に発生したチリ地震津波は、大船渡市に大きな被害をもたらしました。その後、被災した国道を現在の場所に移転することとなり、緊急の発掘調査が行われました。</p>
昭和 41	1966		大洞貝塚が県の史跡に指定される。
昭和 56	1981		大船渡市教育委員会が蛸ノ浦貝塚を再調査し、貝層の剥ぎ取りを行う。
平成 6	1994		大船渡市教育委員会が大洞貝塚の範囲確認調査を行う。〔～平成 12（1999）年〕
			 <p>大洞貝塚の範囲確認調査</p> <p>大船渡市教育委員会の発掘調査では、新たに墓域や居住域、当時の海岸線などが発見され、遺跡の広がりや、縄文時代のムラの様子が明らかになりました。</p>
平成 12	2000		大船渡市教育委員会が大洞貝塚の内容確認調査を行う。〔～平成 15（2003）年〕
平成 13	2001		大洞貝塚が国の史跡に指定される。

ACCESS MAP



大洞貝塚
三陸鉄道リアス線陸前赤崎駅から徒歩 10 分
岩手県交通赤崎小学校前バス停から徒歩 17 分
大船渡基石海岸 IC から車で 15 分

下船渡貝塚
JR大船渡線BRT下船渡駅から徒歩 8 分
岩手県交通小林バス停から徒歩 0 分
大船渡基石海岸 IC から車で 3 分

蛸ノ浦貝塚
岩手県交通上蛸ノ浦バス停から徒歩 7 分
大船渡基石海岸 IC から車で 20 分

大船渡市立博物館
JR大船渡線BRT基石海岸口駅から徒歩 50 分
岩手県交通基石海岸バス停から徒歩 1 分
大船渡基石海岸 IC から車で 11 分



国指定史跡とは…

文化財保護法という法律にもとづいて国が指定した史跡です。

3つの貝塚遺跡は、日本を代表する貴重な文化遺産です。みんなで大切に守っていきましょう。

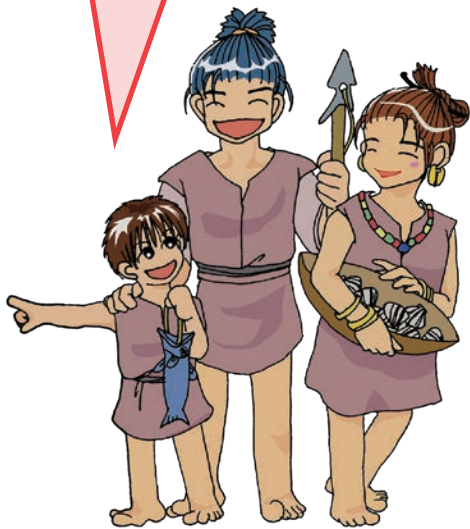
見学される皆様へ

遺物(土器・石器・骨角器など)を持ち帰ったり、動かしたりしないでくださいね。

史跡内を掘ったり、荒したりしないでくださいね。

ゴミを捨てないでくださいね。

住宅や畑などには、勝手に入らないでくださいね。



国指定史跡 蛸ノ浦貝塚 下船渡貝塚 大洞貝塚

令和5年10月発行

編集・発行

大船渡市教育委員会

〒022-8501 岩手県大船渡市盛町字宇津野沢 15

TEL 0192-27-3111 FAX 0192-27-8878

